

ヨーロッパ通信 No.11 SEP.2012

～Messages from & to Konkokyo Believers in Europe～

ドイツ&イギリス集会開催

ヨーロッパにお住まいのみなさま、お元気ですか？
国際センターから森本幸恵次長が現地へ赴き、
ドイツ在住の古本清子先生の協力を得て、ドイツとイギリスで集会を開催しました。
またイギリスには、カナダからステファニー・レイテ先生が来て下さいました。
各地の集会の様子をお届けします！

ドイツ集会 6月9日(土)、10日(日)

6月9日はベルリン市内のタンロンホテルで信心おはなし会を行い、10日は祭典、教話、懇談を行いました。祭典は古本先生が祭主を務め、日本語とドイツ語で行われました。祭典前に「取次カード」という神様へのお願い・お礼・お詫びを書く用紙を参加者に配り、各々に書いてもらいました。それを神前にお供えし、祭典と一緒に祈りました。ホテルのオーナー夫人と従業員も参加しました。



イギリス集会 6月16日(土)

集会の前は雨の日が多かったのですが、集会当日はとても良い天気でした。集会に参加したある方は「金光様のお祭りの日だから晴れたんだわ」と嬉しそうでした。会場のインペリアルホテルには、17名が集いました。

午前は信心おはなし会が行われ、それぞれの信仰経歴を話したり、レイテ先生の入信について聞いたりしました。レイテ先生の神様のお導きを頂く姿に、みな感銘を受けていました。

午後は、日本語と英語で祭典が行われ、森本次長が祭主を務めました。祭典後はレイテ先生が英語で、森本次長が日本語で教話しました。その後、お茶を飲みながら懇談し、交流を深めました。懇談では、初めて集会に参加した方が「近頃、気分がとても落ち込むことがある」と言うと、いつも参加している方が「そのような時は御神米を頂きなさい。すぐく気持ちが落ち着くから」とアドバイスする一幕もありました。





結婚して、イギリスに住んでおられる橋本久実さんに集会の感想をお聞きました！

ロンドン集会に参加して 橋本久実

去年は、到着した時には集会が終わってしまっていたため、今年が初めてのロンドン集会への参加となりました。私は幼いころから、父親について教会に行くのが日常のこと

だったため、金光教をどのように知ったかということをお話することがありませんでしたが、今回ロンドンという日本から遠く離れた教会もない地で、みなさんが金光教をどのように知ったか、どのように信心されているのか、というお話を聞かせていただいたのが、とても印象的でした。また久しぶりのご祈念は、とても心を落ち着かせてくれました。海外での教会のない日常生活の中で、神様にお祈りすることを忘れがちになってしまいますが、今回の集会に参加させていただいて、改めて信心のことを考えさせてもらえるきっかけができました。9月には赤ちゃんも生まれるので、神様におかげを頂いて元気な子どもを授かりたいと思います。

ママ会を開催！

6月14日にパタソン真理子さんのお宅で、幼い子どもを持つ母親たちの懇談会を開きました。お互いの信仰や母親ならではの悩みを話したり、また日本食の作り方など情報交換にも花が咲きました。お昼には真理子さんが作って下さったランチを頂き、楽しい時間を過ごしました。真理子さんの感想を紹介します。

「日々育児をさせて頂く中で、母親同士であるから共感できることの多さを感じていただけに、国際センターの森本さんからママ会を開催したいというお話を伺ったときは、是非参加させて頂きたいと思いました。

少人数の集まりでしたが、その分「ママ」らしい井戸端会議を楽しむことができ、また同じ異国ロンドンという環境で育児をさせて頂いている方にお会いでき、大変貴重かつ楽しい集まりとなりました。

私自身、子どもを通して神様を感じさせて頂くことは大変多く、人を育てるというこの大事業が私に与えられたお役目なんだと日々痛感しています。それだけに、今後もママ会を通してたくさんのママさんと出会い、いろんな思いを分かち合い、子どもを通しての信心、信心を生かした育児、を語り合っていければと思います。」

右から2番目が真理子さんです



ママ会に興味があるママさんは国際センターまでご連絡下さい。

～信奉者紹介コーナー～

今回はイギリス在住のウォーカー道子さんにお話を伺いました。ウォーカーさんは、1990年代から、金光教のロンドン集会に参加してくださっています。そんなウォーカーさんに、金光教との出会いや今日までの信心生活などついて、いくつか質問させていただきましたので、ご紹介いたします♪



Q1. 金光教との出会いをお聞かせ下さい。

A. 1965年頃、私はベトナムに住んでいて、アメリカの国営放送局（The Voice of America）で働いていました。ある日、金光教を熱心に信じていた方をインタビューする機会がありました。その方は私に金光教の本をくださり、東京の銀座教会の湯川誠一先生へ、私の名前と生年月日を書いたお手紙を出してくださいました。それ以来、私の生活の中にミラクルな出来事が次々と起こり始めたのです。

Q2. 金光教の信心をどう感じていますか？

A. 私にとって金光教の信心とは、日常的に目の前に起きてくる現象そのものが神様の恵みだと感じる事なのです。いつも神様が私の面倒を見てくださっていることに、感謝の気持ちと喜びを感じています。

Q3. 生活の中でどのような信心をされていますか？

A. 日常的に拝詞を唱えて御祈念するようにしています。また、この歳になると夜に目が覚めることがあります。私は目が覚めるたびに、暗闇の中目を瞑りながら拝詞をお唱えし、お祈りを捧げています。

Q4. お宅でお祭り(宅祭)をされていますが、いかがですか？

A. ありがたいです。また、みんなで集まってお話ししたり食事をしたりするのも楽しいです。金光教の宣伝をするつもりはないのですが、友人を誘って一緒にお祭りに参加してもらいます。宅祭に参加した友人の孫が重い病気になりましたが、おかげを受けて治り、ありがたいことだと喜んでます。

Q5. 印象に残っている出来事を教えてください。

A. あるとき私は、ロンドンに金光さまの教会がほしい、なんとか建てたいと意気込んだことがありますが、そのとき、夢の中で、「世界にはたくさんの宮寺社があるが、この神は天地にいるのだから、建物じゃない」という神様からの声を聞きました。神様が教会建設に意気込む私に、日々の生活の中でお祈りすることが何よりも大切なんだと教えてくださったのだと思います。

Q6. 最後に一言お願いします。

A. 私は東京で生まれ、ベトナムに行き、現在はロンドンに住んでいます。その間に、娘たちも立派に成長させてもらい、今は幸せな生活を送っています。そのことが本当にありがたいと思うのです。

ノイシュタットと宗教

昨年 10 月私たちが移り住んだノイシュタットという所は、日本語に訳せば「新町」ですが、町ではなく人口 750 人の村です。かつての東西の壁から程近い、ドイツのほぼ中央に位置し、中部山岳地帯と呼ばれる 500 メートルから 1500 メートルの山や丘がなだらかに連なる農耕地帯にあります。我が家の窓から眺めわたせる田園風景にはとても心が和みます。

さて、この小さな村のあるアイクスフェルト地方はかつてマインツ司教領だったため、カトリック教一色で、しかも 1945 年、東西に国が二分された時、この地方も二分され、ノイシュタットのある方は東ドイツ、デウダーシュタットのある方は西ドイツとなってしまいました。ご存知、宗教改革者マルティン・ルターはその活動範囲が東ドイツだったため、このアイクスフェルトの半分は東ドイツにあって、プロテスタントの中に孤島のようにカトリック地域が残った感じだったのです。東ドイツ政府は反宗教的だったのにも関わらず、アイクスフェルトの人々はいろいろな差別を受けながらも、教会に参拝し、信仰し続けたのです。昨年 9 月 23 日、ローマ法王ベネディクト 16 世がドイツ人にも馴染みの少ないアイクスフェルトのマリア礼拝堂を訪れたのはそのような歴史的な背景があつてのことでした。

先日、昨年亡くなった姑の礼拝があるとい

うので、ノイシュタットの教会へ行きました。金光教での御霊祭のようなものかと思つて行きましたが、そうではなく、いつもと同じミサで、神父様がお説教の中で、姑の名前を言われただけでした。舅が亡くなった時は姑が教会に頼んで、特別の礼拝をしてもらっていたのでしょう。その時神父様は居られず、近所の信者さんが、先唱を務めて 30 分ほどご祈念するというものでした。ひょっとして、姑はあのような礼拝をしてほしいと思つているのではないだろうかと思つたりしました。

ノイシュタットに現在、神父様が不在なので、それまでのように毎週日曜日にミサがあるわけではないのですが、教会の中には信者さんで一杯で、60 人程が賛美歌集を持って参拝していました。なぜ賛美歌集かというと、神父様の説教の内容に応じて 600 曲ほどある中からその日の賛美歌が選ばれ、その番号が提示されるので、その度に参拝者全員で歌うのです。日本のカトリック教会でのミサもよく似ているのだらうと思いますが、とにかくドイツのミサはカトリック、プロテスタントに関わりなく、よく歌います。そうすることによって、いろいろなキリストの教えを覚えていくんだらうなと思つます。

金光教でも『天地は語る』に 400 のみ教えがありますが、これを歌にしてお祭りごとに適当なものを選んで参拝者一同、声を揃えて歌うというのはいかがでしょうか。

「ヨーロッパ通信」No.11 SEP. 2012 発行

金光教国際センター 〒113-0033 東京都文京区本郷 2-17-11

Tel+81-3-3818-3701 Fax+81-3-3818-3793 E-mail kic@konkokyo.or.jp

<http://www.konkokyo.or.jp/eng/kic/>